

20. 泌尿器科臨床研修プログラム（選）

1. はじめに

泌尿器科では腎・尿管・膀胱を中心とした尿路系と男性生殖器に関わる領域を主として扱う外科系の専門分野である。

適切な診断と治療が求められ、治療に当たっては内科的治療のみならず外科的治療まで終始一貫した責任が求められる。

研修医の医師としての基本的な手技の獲得や外科的手術の修練が必要となる。

本研修プログラムでは日常診療における泌尿器科領域での基本的知識の習得から簡単な手術手技の習得をめざす。

2. 研修期間

(1) 2年間の研修期間中、最初の1年のうち、4週選択することができる。

研修2年目は、2週から適宜選択できる。

(2) 研修スケジュール

週1回のカンファレンス、症例検討会、勉強会、地域学術研究会に参加する。

4. 研修の目標

<到達目標>

A. 経験すべき診察法（検査・手技）

(1) 診察法：適切な問診、泌尿器科の理学的検査（腎触診、膀胱双手診、前立腺触診、陰嚢内容物触診など）

(2) 検査法：検尿、血液、生化学、内分泌検査、尿道分泌液、前立腺液、精液検査、内視鏡検査、尿流検査、X線検査（KUB,IVP,RP膀胱造影検査）、CT、MRI

(3) 手 技：内視鏡検査に伴う各種手技（膀胱尿道鏡の挿入・観察）

内視鏡手術に伴う適切な助手。尿路の確保（膀胱尿道バルーン留置、膀胱ろう造設、腎ろう造設術）、尿閉、タンポナーデ、血尿に対する適切な処置。小手術の適切な助手、外科的基本手技、尿路管理

B. 経験すべき症状、病態、疾患

- (1) 症状：排尿痛、せん痛発作、頻尿、排尿困難、尿閉、尿失禁、2段排尿、尿線異常、膿尿、尿混濁、血尿、多尿、乏尿、無尿、尿道分泌物排出、腹部腫瘍、陰のう内腫瘍、性器不全、勃起及び射精障害など
- (2) 病態・疾患：腎尿管膀胱の悪性腫瘍、前立腺がん、精巣腫瘍、前立腺肥大、尿路結石症、性行為感染症、神経因声膀胱、男性不妊症、男性性機能障害、腎後腎不全、陰のう疾患、尿道狭窄など

C. 特定医療現場の経験（救急医療）

- (1) 泌尿器科の代表的救急疾患の現地研修
泌尿器科夜間当直を指導医とともに勤め、救急医療の現場を経験する。
- (2) 尿路結石、急性膀胱炎、尿閉、亀頭包皮炎などの頻度の多い疾患の診断と適切な初期治療。
- (3) 腎外傷、膀胱破裂、尿道断裂、精巣捻転症などの緊急を要する疾患の診断と適切な救急処置の判断。

5. 評価基準

泌尿器科疾患に対して臨床医として必要最低限の基本的能力を習得できたか否かを評価する。

泌尿器科医師全員で評価を行う。

6. 勤務時間

勤務時間、休暇については、大船中央病院の就業規則に準ずる。